

平成 26 年度
発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業
(発達障害理解推進拠点事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (いすみ市教育委員会)

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性の向上に関する研修会等の実施及び拠点校によるユニバーサルデザインの視点に立った授業実践研究

2. 問題意識

平成 24 年 12 月に文部科学省から発達障害の可能性のある児童生徒が 6.5%程度存在するという発表があったが、いすみ市内の小中学校において平成 26 年 5 月に本事業の取組として調査した結果では、支援の必要な気になる児童生徒の割合が 11.4%あった。調査方法は異なるが、多くの児童生徒が何らかの支援を必要としていることがわかる。発達障害に関する理解や支援の方法などの教職員の専門性を高めることは喫緊の課題であるといえる。

そこで、本事業の目的を、「発達障害に関する教職員の専門性を高め、支援の必要な児童生徒に対して適切な支援ができるようにする」とし、各種研修会を実施したり拠点校の授業実践を公開したりして、理解推進地域の教職員や保護者及び地域社会に対して、発達障害の児童生徒への理解推進に努めてきた。

3. 拠点校について

○拠点校

設置者	学校名
いすみ市	いすみ市立大原小学校

○理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名
いすみ市	いすみ市立東海小学校
いすみ市	いすみ市立東小学校
いすみ市	いすみ市立浪花小学校

いすみ市	いすみ市立長者小学校
いすみ市	いすみ市立中根小学校
いすみ市	いすみ市立太東小学校
いすみ市	いすみ市立古沢小学校
いすみ市	いすみ市立国吉小学校
いすみ市	いすみ市立千町小学校
いすみ市	いすみ市立中川小学校
いすみ市	いすみ市立大原中学校
いすみ市	いすみ市立岬中学校
いすみ市	いすみ市立国吉中学校

4. 拠点校における取組概要

本事業を進めるにあたり、地域の専門家の方々から指導助言をいただくために発達障害専門性向上検討会議「燦々会議」を設置する。この会議は、学校（行政）関係者に加え、医療、福祉関係の専門家で構成し、下記の本事業の取組を推進する。

1. 各種研修会の実施

(1) 教職員向け発達障害に関する外部専門家による研修会の実施

- ・専門性を高め学級内での具体的な支援の方法を学ぶための研修会の実施

(2) 発達障害理解推進セミナー「燦シャイン」の実施

- ・発達障害に関しての地域社会向け、理解啓発のための研修会の実施

(3) 発達障害の理解・支援に関する研修会

- ・特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育支援員対象の研修会の実施

(4) 理解推進地域への成果普及の取組

- ・各学校で計画した校内研修会に拠点校の職員を講師として派遣

2. 発達障害に関する教職員の意識調査の実施

3. 拠点校における研究実践の公開

(1) ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり

- ・ユニバーサルデザインの授業の視点の整理

(2) 授業実践の公开发表による地域への理解推進

(3) 障害児理解推進授業の実践（5年生）

(4) ユニバーサルデザインの視点に立った算数の授業実践（6年生）

- ・児童の意識面・学力面についての検証

5. 主な成果

①教職員向け発達障害に関する研修会は、平成26年度は3回実施し、のべ301名の教職員及び支援員が研修会に参加し専門性を高めることができた。また、地域社会全体に参加を呼びかけた発達障害理解推進セミナー「燦シャイン」は、3回実施し教職員、保護者及び地域の一般参加者も含め、のべ913名の参加者があった。第2回発達障害理解推進セミナー「燦シャイン」においては、燦々会議の委員によるパネルディスカッションを開催し、発達障害に関して学校（行政）、医療、福祉などのそれぞれの立場からの取組と連携について提言をいただいた。

②発達障害に関する教職員の意識調査については、理解推進地域内の小中学校を対象とし、平成26年度は5月と各種研修会受講後の12月に2回実施した。2回の調査について比較考察の結果から、発達障害に関しての理解や支援の方法について各調査項目の数値が高まったことから研修会受講の成果がうかがわれる。

③拠点校における研究実践においては、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりに視点をあてて実践研究を行った。どの子にもわかりやすい授業の手立てや支援を考え、ユニバーサルデザインの授業の視点を「教師のかかわり方」、「授業の構成」、「教材の工夫」の3つの領域に整理し、授業実践を行った。また、6年生による算数の授業の実践では、ユニバーサルデザインの授業についての意識面の変化や前年の5年次と比較し、学方面での向上が見られた。

④本研究の取組の概要及び成果については、拠点校のホームページで公開し情報提供をする。ホームページアドレス：<https://ns.chiba-a.jp/oohara-e/>

6. 今後の課題と対応

本事業では、発達障害に関する教職員の専門性を高めるために外部講師を招いての研修会を実施し、本地域の多くの教職員及び支援員が発達障害についての理解を深め専門性を高めることができた。また、指導支援の方法や手立てについても研修し、日々の実践に生かすことができたと多くの感想・意見があった。今後も継続して発達障害に関する研修会等を企画していくためには、継続した予算化が必要となる。また、本地域における専門家で構成された「燦々会議」についても継続して指導・助言がいただけるような体制づくりや地域の関係機関との連携が課題となる。平成26年度は、いすみ市教育研究会や夷隅地区特別支援連携協議会と連携し、研修会の運営を進めることができた。来年度以降も研修会の運営等について継続したプログラムの体系化ができるように連携を深めていきたい。

拠点校における研究実践も継続し、ユニバーサルデザインの視点に立った授業を公開したり、ホームページ等で授業づくりの方法や教材等についての情報を発信したりしていきたい。また、授業づくりにおいては、個々の学び方に合わせた指導支援の工夫を追究していきたい。今後ともユニバーサルデザインの学級経営に視点をあてて、誰もが相互に人格と個性を尊重し、認め合える「心のユニバーサルデザイン」を推進し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の構築を目指していきたい。

7. 問い合わせ先

組織名： いすみ市教育委員会

- | | |
|-------------|--|
| (1) 担当部署 | 学校教育課 学校指導班 |
| (2) 所在地 | 千葉県いすみ市大原7400-1 |
| (3) 電話番号 | 0470-62-3621 |
| (4) FAX番号 | 0470-62-2835 |
| (5) メールアドレス | gakkou-shidou@city.isumi.lg.jp |